

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でなじみの人と、その人らしく安心して楽しく暮らしてもらえるように職員全員で実践しています。振りかえられるように掲げてあります。	法人の理念とともに法人内の4つのグループホーム共通の理念「住み慣れた地域で自分らしくいきいきとゆっくりとあせらずに一緒に暮らす」を玄関に掲げ、来訪者にもわかり易くしている。また法人としての「ご利用者に対する宣言」として15項目が掲げられおり、その中からピックアップし、月1回開かれる法人全体会議で復唱し職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等への参加や、散歩中、皆さんから声をかけていただいたり、地域の方から野菜を頂いたり交流ができています。	地区の自治会には、「消防費」の名目で協力費を納め、市の広報や回覧板により情報を得たり総会に参加し、地区のいきいきサロンに参加している利用者もいる。地元の保育園児から手作りカレンダーなども頂き、小学生との交流も継続して行われており、運動会や音楽会にも招待され、また、併設の認知症通所介護事業所と合同で行われる年末の餅つき大会に小学生や地域の人々に声を掛け参加していただいている。更に、近所から野菜をいただくなど、地域の人々との馴染みの関係も出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや人材育成貢献として実習生の受け入れは積極的に行っている。実習生の受け入れは1回2名を限度としご利用者に迷惑がかからないように配慮しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では意見交換を通じて、地域の方にグループホームを知って頂く事から始めています。助言や貴重な意見をたくさんいただいています。行事への参加のきっかけの話し合いが持てた。	運営推進会議は「はぎの花の会」と名付けられ、2ヶ月に1回奇数月の夜7時から8時まで併設の認知症通所介護事業所と合同で開かれている。地区役員、長寿会役員、福祉推進委員、市職員、地域包括支援センター職員等が参加し、日頃の利用者の様子を報告したり、その時々に応じた、災害や認知症サポーター養成講座などの議題に沿い意見交換し、助言等もサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、萩地域へのグループホームへの理解を広げる協力をいただいています。介護相談員の方の訪問があり、話しを聞いていかれます。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議には法人内の4つのグループホームの統括リーダーが出席し情報交換し協働している。地区のお茶のみサロンなどの認知症サポーター養成講座で統括リーダーから話をさせていただくこともある。介護相談員2名が3ヶ月に1回来訪し、利用者との話の後、職員とも意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていません。全ての職員が、目配り気配りで安全を確保しつつ自由に生活していただけるような支援を行っています。	法人内には身体拘束・褥瘡予防委員会が設置されており、法人全体研修も年2回開かれ身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。また、ホーム職員もその委員会の委員となり、他の職員に情報を伝え、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。	

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守するよう努めている。法人全体としても職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用していた方もいらっしゃったので、後見人の方の役割、必要性については理解できていると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容について時間をとって説明している。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携については詳しく説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。又、介護相談員の訪問もありご利用者が気軽に外部の方に相談できるように配慮しています。	意見や要望を伝えられる利用者もいるが、自ら表すことが難しい方には日頃の様子から汲み取り、二者択一が出来るような声掛けをし意思を確認している。家族の来訪も毎日あるいは週に1回という方もおり、面会時に日頃の様子を伝え、希望もお聞きし、遠方の家族の場合には電話で連絡を取っている。また、グループホームとして食事会を兼ねた交流会を開き意見交換の場としている。また、法人全体として敬老の日に「イキイキまつり」を開催し、家族も招待し、意見・要望等を集約している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞くように心がけている。日々の会話からも感じ取れるよう話を聞くように心掛け、ご利用者との日常的な関わりの中から生まれる、職員の気付きやアイデアは積極的に取り入れています。	法人全体会議、グループホーム勉強会、ホームのカンファレンスがそれぞれ月1回開かれ意見交換している。別に法人としての管理者会議があり月1回開催され、ホーム職員にもその内容が伝えられている。職員は年1回、法人本部の担当部長や統括リーダーと面接し希望や要望を伝えている。法人としてストレスチェックも行われており、管理者は働きやすい環境づくりに心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の実績、悩み等把握するようつとめています。健康診断等心身の健康を保つための対応もしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体会議が毎月あり、施設内研修会も実施されている。グループホーム会議でも毎月違ったテーマで勉強会が行われ職員の学ぶ機会を多く作れるように努力している。外部の研修会も参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上する活動や勉強会ネットワークづくりを行っている。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んに行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人とご家族に何回かお会いして生活情報や心身の状況、これからどのようにしていきたいのかご希望を聞くなどして安心が得られるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くように努めている。相談にいらしたご家族の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思いや状況を確認し体験できる状況であれば体験していただいている。利用する状況になれば必要なサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側の関係でなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にする家族のような関係でありたいと考えている。出来ることに着目し得意な事を楽しみながらやって頂きよい関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ電話やお便りなどで現状をお知らせしたりご相談にのっていただいたりして関係を築いている。家族会やグループホームの行事にもお誘いし交流の機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れたり、一緒に外出や外泊をしたり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、地域の行事に参加して出来るだけ関わりが持てるように努力しています。	お盆やお彼岸に家族と墓参りに出掛けたり、月1回、遠方からの家族が戻り、3～4泊ほど自宅に外泊し生活を共にする利用者もいる。利用者のほとんどは地元の方であり、地区のお茶のみサロンに出掛け、友人のおしゃべりを楽しむ方もいる。また、併設の認知症通所介護事業所で行われる行事に参加し、その利用者と交流する方もいる。更に、ホームでは地区で行われる馴染みの盆踊り、どんど焼き、繭玉づくりなどの昔からの行事に利用者とともに参加し地域の人々とふれ合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合う方同士で過 す時間を作るなど関係が上手くいくように努めて いる。心身の状態や気分が日々変動するの でトラブルが生じることもあるが、原因を探りその ような状況にならないように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると疎遠になりがちだが、お亡 くなりになった方のご葬儀や新盆にはお参り させて頂くようにしている。また、長期入院 等により退居された方に面会に行ったりと良 い関係が継続できるよう努力していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中でゆっくり話を聴き、把握 に努めている。言葉や表情からその真意を 推し量ったりそれとなく確認をするようにして いる。ご家族からも情報を得るように努めて いる。	利用契約時に生活歴や希望をお聞きし日々の生活に 活かしている。利用者一人ひとりの心身の状態を把握 し、利用者に合わせ、できること、得意なこと、好きなこ となどに関わつていただき、充実した一日になるよう に支援している。現在、カラオケが好きな利用者が多 く、声を出すことで健康に繋げ、和やかな雰囲気づく りにも役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用開始時にご家族から情報を頂いてい る。その方にとってのこれからの暮らしは今 までの暮らしの延長と捉えて、必要な情報 の収集に努めている。入居後も機会のある ごとにお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	昨日できたことが今日出来るとは限らなく、 また出来る日もあるあるかもしれないと、 日々その方の心身状態を把握し、職員間の 情報交換し、できる事をお互いにして一日を 過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃からの関わりの中 で、思いや意見を聴き反映させるようにして いる。ご本人が出来ること、やりたいことに 着目して介護計画を作成しています。	職員はほぼ1名ずつの利用者を担当しており、毎月開 いているカンファレンス前に担当している利用者の課 題を抽出し全員で相談し合い、3ヶ月に1回見直しを 行っている。状態に変化が見られた時には随時、見直 しを行っている。家族には見直しの都度、希望・要望 をお聞きし、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々 のケアでの気づき、出来る事、食事量や水 分量の記録を行う事で、スタッフ間の情報の 共有化を図っている。個別記録をもとに介 護計画の見直し評価を実施している。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの契約により重度化や、終末期の対応が可能である。本人や家族の意向に沿えるように努力している。通院等必要な支援は柔軟に対応している。訪問歯科診療の利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のご協力をいただき、地域の行事に参加したり、馴染みのスーパーに買い物に出かけたりしています。小学校の児童との交流もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を進めることはなく、ご本人やご家族のご希望に応じて対応しています。訪問診療に来ていただくケースもあり医療機関との連携もとれています。	利用契約時に協力医があることを説明し希望をお聞きしている。協力医が地元のクリニックでもあり、利用前から主治医としている方もいる。4週間に1回、協力医による訪問診療を受けている。それ以外の受診については家族にお願いしており、依頼があればホームとしても対応している。月2回、訪問看護師が来訪し、主治医との連携も行われている。万が一の時には、併設の認知症通所介護事業所の看護師に相談することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの契約にもとずき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を頂、日常的に連携がとれている。24時間相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく多く見舞うようにし、病院側、ご家族との情報交換や意見交換を行いながら早期退院に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし同意をいただき、ご家族、医師、看護師を交えた話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っている。随時状態の変化をお伝えし相談、意思確認しながら取り組んでいる。	利用契約時に重度化や看取りについての指針を説明し同意をいただいている。状態の変化に応じて家族の希望を再確認するために主治医、訪問看護師、管理者が指針に沿って話し合いを行い、計画を立て、希望に沿えるよう支援している。一昨年度は2名の方をホームで看取っており、ホームでは利用者も含め全員で玄関からお見送りをしている。看取りに際し、職員は献身的に取り組んでおり、家族からも感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て全体会議で救急救命法の講義を受け対応できるように努めている。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っています。地域の方、ご近所の方にも呼びかけ参加いただいています。萩自治会の防災訓練にも参加しています。	年2回併設の認知症通所介護事業所と合同で防災訓練を行っている。夜間想定訓練も実施しており、毎年9月に行われている自治会の訓練にも職員が参加し地域の人々との関係づくりをし、地元消防団からも万が一の時に協力を得られるようにしている。非常食や防災グッズなどの備蓄も取り揃えられている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄り1人ひとり大切に考え、その人に合った声掛けと対応を心掛けています。ご本人の自尊心を大切に言葉掛けをするように心がけています。	利用者の尊厳やプライバシー保護のための研修が法人の必須研修として実施されており、職員は人権擁護についての意識を高めている。職員の声掛けは一人ひとりの利用者に合わせたトーンでプライドを損ねないように配慮している。利用者は全員が地元の方のため、名字が同じ方には名前に「さん」をつけて呼びかけをすることもある。入浴や排泄時の異性介助については利用者との信頼関係が築かれた時点で配慮しながら実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意思を確認し、希望されないことは無理強いすることの無いようにしています。言葉では十分に意思表示できない場合でも、表情や反応を汲み取り自己決定できるように支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りの意思や希望を大切にしています。お年寄りの希望を最優先にするように、ひとり一人その日、その時の本人の気持ちを尊重し、関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣や好みに合わせ身だしなみは大切に考えている。ご家族や職員が床屋さんしています。生活習慣や季節、好みにあわせてその人らしいおしゃれや身だしなみができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に出かけたり、一緒に作ったり、盛り付けしたり、食事を大切にしています。職員も同じテーブルを囲んでたのしく食事できるようにしています。	大半の利用者が常食で、また、自力で摂取でき、全介助の方も若干名いるが職員は一人ひとりに対応し支援している。利用者はできる範囲で盛り付け、皮むきなどのお手伝いをしている。糖分摂取に制限がある方については法人の管理栄養士に時折相談し助言を頂いている。陽気がいい時にはテラスで昼食を摂ったり、利用者の楽しみの一つとなっているおはぎを利用者全員で役割を分担し作ったりしている。誕生日にはおやつにケーキを食べお祝いしている。家族と外食に出掛ける利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きなものを楽しめるように配慮している。体調を崩されたりレベル低下の為、食事が十分に摂れない方には、食事チェックを細かく行い情報や気づき、アイデアを出し合いその方の心身の状態が良好に保たれるように支援しています。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの習慣や意向をふまえ、個別に働きかけを行っている。、出来ない方に関しては本人に応じた口腔ケアを行っている。また、訪問歯科もはいつている。夜間は義歯は義歯洗浄剤につけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行けない方もトイレ誘導をし、出来るだけ清潔に過ごして頂けるようにしています。自立の方でも自尊心を損なわないよう関わらせていただきます。	利用者6名の内半数強の方が自立しており布パンツとパットを使用している方がいる。日常的にホーム内で車イスを使用している方がおり、リハビリパンツを使っている。ホームではトイレでの排泄を大切にしており、さりげなく声掛けしトイレへと誘導している。利用者の状態に合わせ快適な排泄用品を使用しており、変更する場合は家族にも説明し了解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず十分な水分補給と、野菜中心の食事提供をしている。水分の摂取と繊維質の食べ物、野菜が多く取れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日でも入浴して頂けます。好まない方は、楽しく入れるよな声がけなど工夫しています。ゆっくり入浴していただいています。	入浴回数は決めず、週に少なくとも2日は入るようにしており、日々希望をお聞きし入浴していただいている。入浴の時間帯は午後3時以降からが多く、利用者同士で誘い合って温泉気分でおしゃべりしながら楽しめる方もいる。広々とした浴室にはリフトが設置されており、寝たきりになってもホームでの生活を希望される方にも対応できるようになっている。入浴剤を入れたり、ゆず湯なども行い楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休みたい時間に就寝しています。日中、眠い時には好きな場所で休んでもらいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに確認出来るようになっていきます。薬は1回分ずつトレイに出し、飲み忘れの無いように日付けを記入しています。職員間で声を掛け合って誤薬無いように確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来ることはその時々心身の状態、体調に合わせて、その方の楽しみとして無理なくやっております。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や馴染の場所へ外出しています。地域の行事、小学校、保育園などの行事にも希望を伺いながら出かけています。四季折々に遠出することもあります。	四季折々、少人数で地元の桜やつつじのきれいな馴染みの場所に花見や散歩に出掛けている。また、小学校の運動会・音楽会などにも招待され出掛けている。家族と外出や外泊される方もおり、スムーズに外出できるよう職員が支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい物があれば、自分で財布を持ち、買物に出かけ支払って頂く事も出来ます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただけます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、くつろげる環境づくりをまとめています。居間と食堂が同じ空間であるため、広い空間を有効に使う工夫をしています。	共用のリビングは広々としており、一角にはお仏壇があり、かつてホームで生活された方の位牌が安置されている。利用者は殆どの時間をリビングで過ごしており、食事をしたり、テレビ観戦やカラオケなどに興じており、楽しい会話がいつも聞こえてくるという。冷暖房はエアコンで快適に保たれている。リビングから広いテラスに出ることができベンチも用意され、ゆっくり日向ぼっこやお茶、食事をすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席はほぼ固定化しており、そこが一人ひとりの居心地の良い場所になっています。テレビを見たり、外の景色を見ながら話が弾みます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていたものなど入居時にお持ちいただいています。家族の写真飾っている方もいます。	全ての居室の入り口はふすまでまた居室内も畳で、更に、押入れも設置されており、住み慣れた日本家屋の良さが感じられる。そうした中、ベッド使用の方もおり、畳に布団を敷き馴染みの生活を継続している利用者もいる。使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んだり、家族の写真なども壁に貼り、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人がわかるように配慮し、使い勝手良く、出来るだけ自立した生活が送れるように支援しています。		